

図書館だより



No.200

2016(平成28)年6月16日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>



◆ イベントのお知らせ ◆

親子ふれあい読書フェスティバル “絵本はともだち”

日時：平成28年7月3日(日) 12:00~15:15 <入場無料・申込不要>

場所：白河市立図書館

13:00~14:30 講演会「親子で楽しむおはなしの世界」幼児教育専門家 藤田浩子さん
※子ども向けのお話会もあわせて実施します。

14:45~15:15 交流会：講師と地元ボランティア等との意見交換会。

12:00~15:45 絵本の展示と読書相談 担当：福島県立図書館職員

問い合わせ先：県立図書館 企画管理部 電話 024-535-3220

■ブラジルの絵本作家

ホジェル・メロ講演会— “本、それは差異の迷宮”

<要事前申込・入場無料・日本語通訳付き>

ホジェル・メロ氏

場所：福島県立図書館・講堂

日時：7月27日(水) 14:00~16:50

対象：中学生以上で図書館・学校関係者、
児童文学・絵本研究関係者、出版
関係者はじめ、一般県民の方々。

定員：200名程度

問い合わせ先：県立図書館 企画管理部
電話 024-535-3220

2014年国際アンデルセン賞
画家賞を受賞した画家・絵本
作家です。
鮮やかな色や様々な素材を駆使
し、ブラジルの伝統的な物語
や詩・自作の哲学的な文章を
合わせて表現した絵本作品の
ほか、児童労働や貧困といっ
た社会的なテーマに目を向け
た作品も生み出しています。

■赤ちゃんと保護者のための

“ちいさなおはなしかい”

<入場無料・申込不要>

場所：県立図書館

こどものへやにご集合ください

日時：7月14日(木)

10:30~11:00

*8月のちいさな

おはなしかいは
お休みします。

◆ 展示のお知らせ ◆

まほろん移動展

「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」

6月3日(金)~7月6日(水)

その形や文様が不思議な魅力の縄文土器。福島県文化財センター
白河館(まほろん)の移動展として同館の研究成果をもとに、
縄文土器に付着したススやコゲから土器が使われた時期の解明や
縄文時代の生活に迫ります。(場所：展示コーナー)

7月の
展示の
お知らせ

「ピーターラビットの世界展

~ビアトリクス・ポター生誕150年~

7月8日(金)~8月3日(水)(場所：展示コーナー)

◆関連講座◆

「縄文土器の年代— ススとコゲからなぞをとく—」

(ふくしまを知る連続講座①)

日時：6月19日(日)

14:00~15:30

講師：福島県文化財センター白河館(まほろん)
専門学芸員 三浦 武司氏

場所：県立図書館第一研修室

<参加無料・申込不要>

縄文土器に付着したススやコゲを分析
した結果、何がわかったのか?縄文時
代の人々はどのような食生活をおくっ
ていたのか解説します。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

人文・自然・社会

『Q&A で学ぶ写真著作権』 日本写真家協会／企画監修 太田出版 2016.1 021.2/㊦161/

「新聞紙面に掲載されている報道目的の写真は自由利用できるか」「教育機関の授業で、市販されている問題集をコピーして学生に配布するのは著作権侵害か」「お祭りに来ている見物人を撮影し、ホームページに公開したいが問題ないか」など、デジタル時代の写真に関するさまざまな著作権についての身近な疑問を Q&A 形式で紹介。SNSの急速な普及により、誰しも写真の著作権や肖像権の侵害を起こしうる状況にあることをあらためて知らせてくれる内容です。

『「文系学部廃止」の衝撃』 集英社新書 0823 吉見俊哉／著 集英社 2016.2 377/㊦162/

2015年6月、「文科省は文系学部を廃止しようとしている」という報道があり、話題となりました。本当に文科省からそのような通知が出たのか？「文系は役に立たない」という認識が、なぜ日本社会に浸透してしまったのか？そして大学が今後歩むべき道とは？大学関係者や学生だけでなく、多元化・複雑化・流動化している社会を生きる現代の私たちに、必要な議論を投げかけている本です。

『ねこはすごい』 朝日新書 552 山根 明弘／著 朝日新聞出版 2016.2 645.7/㊦162/

日本人にとって身近な動物、ねこ。古くはねずみから米を守り、現在は心癒される“ねこカフェ”が人気を得ています。ねこの身体能力は一万年前のヤマネコ時代、野生のハンターだった頃から失われていないそうです。しかし、同じ家の中で、あるいは同じ街の中で暮らしている様子からは、その能力を知ることができません。この本では、そんなねこの秘められた能力、人とねこの関わりを紹介しています。街で出会うねこたちを見る目が変わるかもしれない一冊です。

児童・児童図書研究

「きみもなれる!家事の達人 全4巻」 阿部 絢子／監修 少年写真新聞社 2015.11 590/㊦

毎日何気なく行っている家事を「せんたく」「そうじ」「すいじ」「かいもの」の4巻に分け、それぞれの歴史や、実践する際のポイントを説明しています。

2巻の「そうじ」では、教室を子どもたち自身がそうじする習慣は江戸時代にその起源があること、4巻の「かいもの」では新鮮な野菜の選び方や食品表示の見方などが紹介されています。

ある調査によると「家事はやれば楽しいけれど、やれていない」子どもが多いそうです。親子で楽しく学ぶことができ、家庭で家事に取り組む際のきっかけとして、おすすめのシリーズです。

雑誌・新聞

4月14日から続いた一連の地震活動は、熊本県熊本地方から大分県中部にわたり大きな被害と影響を与えています。各メディアで取り上げられる内容も、生活・物資・経済面の難題から政治的な問題提起に至るまで多岐に及ぶため、今回は新着資料から関連の記事をご紹介します。

*九州・大規模地震の衝撃

『潮』2016年6月号 Z/051/U1

*特集 熊本地震被災地

『新潮45』2016年6月号 Z/051/S31

*熊本大地震と日本の未来

『サンデー毎日』2016年5月8-15日号 Z/051/S18

*熊本大地震 九州経済圏に知られざる危機

『週刊ダイヤモンド』2016年4月30日号 Z/330.5/S7

*緊急特集 熊本地震

『日経サイエンス』2016年7月号 Z/405/S3

*「緊急寄稿 広瀬隆 九州縦断・熊本大地震から考える」

広瀬隆／著 『DAYS JAPAN』2016年6月号 Z/051/D7

*検証 熊本地震1カ月(1)～(5)

日本経済新聞 朝刊 2016年5月16-21日[連載]

*検証 熊本地震(1)～(5)

産経新聞 朝刊 2016年5月14-18日[連載]

地域

『それでも飯舘村はそこにある』 大渡美咲／著 産経新聞出版 2016.3 LS369.31/013/1

東京電力福島第一原子力発電所事故から5年。未だ全村避難が続く飯舘村の人々が辿ってきた苦難の道のりを、村出身の新聞記者が取材しまとめた記録です。

作中には、地元育ちの著者だからこそ取材できる、表舞台には出てこない村民のさまざまな素顔が描写されています。村の発展の礎を築いてきた中高年世代や子どもを持つ30～40代の世代など、村を追われてなお人々が抱く故郷・飯舘村への強い想いが読み手に伝わってくる1冊です。

『バスを待って(小学館文庫)』 石田千／著

小学館 2016.2 LA913.6/I8/2

著者は福島県生まれの東京育ち、大学在学中から嵐山光三郎氏の助手を16年務め、昨年末に『家へ』で芥川賞の候補作にノミネートされました。

登場するのは旦那さんを亡くしたばかりの女性や連休前のOL、好きな人と別れた男、泣き虫の子どもとお母さん、寄席に通うおじさんと若い女性…様々な人々とバスのある街の風景。ほろっときたり微笑んだりの人間味あふれた短編集です。

読んでいるうちに、バスにゆられ自分の人生を思い巡らしてみたくくなります。2013年刊行の単行本に加筆修正を加えた文庫本です。